

令和3年1月改定  
令和元年10月改定  
令和元年6月改定  
平成28年6月改定  
平成26年6月改定  
平成24年1月

## 情報理工学位プログラム(CS)における 社会人早期修了プログラム履修のための案内

### 【1】 社会人早期修了プログラム履修審査

社会人特別選抜によって後期課程に合格し、早期修了プログラムの履修を希望する方は、以下の書類を提出することによって、社会人早期修了プログラム履修審査を受けることができます。書類提出時期と提出先については、システム情報工学研究群「早期修了プログラム履修審査に係る日程表」(システム情報工学研究群ウェブに掲載)を見てください。

また、書類提出前に提出書類の内容について指導希望教員と相談してください。

なお、このプログラム履修審査は、書類審査を原則としますが、場合によっては面接審査を行います。

### 社会人早期修了プログラム履修審査のために準備する書類

次のように、Ⅰ. 概要、Ⅱ. 業績リストと付属資料、Ⅲ. 達成度自己点検シートの3種類の書類を提出してください。

#### I. 概要

次の項目について、簡潔にまとめてください(全体で1ページ以内)。

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 連絡先  
(郵便物送付先、電話番号(携帯電話も)、FAX番号、e-mail addressを必ず記載)
- (4) 志望分野・希望指導教員
- (5) 修士論文作成時の専門分野(修士号保有者のみ)
- (6) 業務内容と志望分野との関わり
- (7) その他参考となる事項(業績・資格など)

#### II. 業績リストと付属資料

情報理工学位プログラムにおいて早期修了プログラムを履修するためには、次に示す研究発表の実績が必要です。

- ・査読付き学術雑誌論文：1編以上(査読付き国際会議論文でも認められる場合がある。主たる著者である)

こと.)

これを含む全業績リストを作成してください。業績リストは、査読付き学術論文、査読付き国際会議論文、口頭発表、その他諸報告、社会的貢献・活動、受賞・表彰、特許・発明、に区分して、「業績リスト (CS)」を『業績リスト (CS)』記載例を参考として、作成してください (様式自由、ページ制限無し)。

また、付属資料として、上記の論文1編の別刷り (コピー可) を提出してください。なお、採録可とされていれば未刊行のものでも構いません。その場合は、採録通知と原稿を付属資料としてください。但し、本業績によって、博士早期修了プログラムが1年間で修了できることを保証するものではありません。修了に要する年月の見込みについては、予め受入れ予定指導教員と相談してください。

### III. 達成度自己点検シート

達成度自己点検シートにおける「汎用コンピテンス」1～5の項目、および「学位 P コンピテンス」1～3について、自己評価として A (博士の学位にふさわしいレベル)、B (修士の学位レベル)、C (学士の学位レベル) のいずれかを、その根拠とともに「コンピテンス自己点検シート【履修生用】」に記入してください。いずれも、具体的な事例や成果を引用しながら記述してください。

#### 「汎用コンピテンス」

##### 1. 知の創成力

先に挙げた業績リストにおいて、新たな知の創成といえる事例を具体的に説明し、今後どう人類社会の未来に資する可能性があるかを端的に記述してください。

##### 2. マネジメント能力

これまでの経験と学習が、どのような形で俯瞰的な視野から課題を発見し、解決のための計画と実行につなげることができたかを簡潔に記述してください。

##### 3. コミュニケーション能力

学術的成果の本質を分かりやすく論理的に伝えた経験や、研究成果に対する質疑応答に如何に的確に対応できるかを記述してください。

##### 4. リーダーシップ力

実務の中でどのような目標を今までに設定し、またそれを実現するためにどのようにリーダーシップを発揮してきたかを記述してください。

##### 5. 国際性

国際的な取り組みの経験や、十分な語学力を有することを明示してください。

#### 「学位 P コンピテンス」

##### 1. 研究力

先に挙げた業績リストに挙げた論文等の内容に従って、評価の観点①～④に関して博士の学位にふさわしいレベルであることを、端的に主張してください。これまで行った国際会議など国際的な場でのプレゼンテーション（種類・回数）を簡単に要約して記してください。

## 2. 知識力

専門知識に関わる評価の観点①～③のすべて、もしくはいずれかのステップにおいて、具体的な事例における先端的で高度な専門知識とその運用能力を有していることを記載してください。とくに、該当する業績リストの成果を引用して記載することが望ましいです。

## 3. 倫理観

研究者倫理および技術者倫理をどのように身に着け、実践しているかを記述してください。

### 社会人早期修了プログラム履修審査の内容について

「達成度自己点検シート（入学時審査）」、「業績リスト（CS）」などの資料を基に、達成度評価項目別に3段階評価を行います。

A：博士論文予備審査に入れるレベル

B：修士号相当のレベル

C：修士号のレベルに達していない

## 【2】 履修が承認された場合の学修について

### 履修すべき単位数について

以下の科目について計10単位を修得することが必要です。

(1) 情報理工後期特別研究（6単位：必修）

(2) 情報理工後期特別演習A（2単位：必修）

(3) 情報理工後期特別演習B（2単位：選択）

このうち、(1)、(2)は必修ですが、(3)に替えて他の専門科目を2単位以上修得することもできます。その他、どの科目を履修すれば良いかの詳細については、本プログラム履修が承認された後に連絡します。

これらを履修することによって、予備審査時にはすべてのコンピテンスの項目について、予備審査に入れるレベルに到達している必要があります。

### 中間審査について

学修を円滑に進めるため、本プログラム履修開始から3～4ヶ月経過した時点で、学修の進捗について中間審査を行います。中間審査時には、履修審査時に提出した「達成度自己点検シート（入学時審査）」と同様の形式の「達成度自己点検シート（中間審査）」を提出し、担当教員の指導を受けてください。

## 予備審査について

予備審査の申請にあたって、「達成度自己点検シート（予備審査）」（履修審査時に提出した「達成度自己点検シート（入学時審査）」と同様な形式で記述）では、汎用コンピテンス及び学位Pコンピテンスのすべての項目について、入学後に何を学び、博士予備審査のレベルに達したかを述べてください。

予備審査時には、次の2点を審査します。

- (1) 汎用コンピテンス及び学位Pコンピテンスのすべての項目についてA（博士の学位にふさわしいレベル）以上であることの確認
- (2) 学位論文の予備審査

予備審査に合格した者は、学位論文の執筆に着手することが認められます。